

業界・行政ニュース

切さを強調した。

講座に先立ち、小学校児童（4・6年）を対象に防災学習授業が行われた。

北立誠小で 防災講座開催

建設技術センター

訓丁もし、南海トラフ巨大地震が津市を襲ったらーを開催した。小学校児童のPTAや住民ら143人が聴講した。写真。

三重労働局

死亡者は0人

12月の防災状況

が6人、前記以外の建築工事が5人、その他建設業が5人。型別の発生状況は、墜落・転落が8人、激突され、挟まれ・巻き込まれが各3人など。起因物別の発生状況は、用具が6人、材料が4人など。

署別では、四日市署が10人、松阪署が2人、津署が7人、伊勢署が2人、伊賀署が1人、熊野署が0人だった。

建設業の休業4日以上死傷者数の11・12月累計は266人となり、前年同時期の271人と比

三重労働局は、2016年12月の三重県内の労働災害発生状況をまとめた。死亡者数は全産業で0人だった。

休業4日以上の死傷者数は産業全体で170人となり、このうち建設業

は22人を占めた。構成率は12・9%を占めた。業種別で見ると、土木工事が6人、木造家屋建築工事

三重県建設技術センターは14日、津市江戸橋1の津市立北立誠小学校で、防災講座、東日本大震災の巨大津波から学ぶ教



訓丁もし、南海トラフ巨大地震が津市を襲ったらーを開催した。小学校児童のPTAや住民ら143人が聴講した。写真。

講師に招いた一般社団法人「雄勝花物語」共同代表の徳水博志氏は、東日本大震災時に宮城県石巻市の雄勝小学校教員として、子どもたちとともに避難した経験を持ち、その後、被災した子どもたちの心のケア、被災地の緑化活動に取り組んでいる。講演では、震災時に避難先を体育館から山に変えた経緯や、津市江戸橋地域が津波による危険性が高いことなどを説